

木祖村議会だより

道しる



第72回おおとり祭 「青春を掴みとれ ～Power of Smile～」



令和4年9月30日(金) 木祖村立木祖中学校

唐澤村長へ「生徒会長 岩原 来夢さん」から
サプライズの花束贈呈



令和4年9月17日(土) 木祖村立木祖小学校運動会

令和4年10月27日

No 178

晴天に恵まれ皆が輝いた運動会

令和3年度決算認定

感染症対策や福祉施設等 ハード事業の減少により大幅な減額

令和3年度 村のお金の使い道 (一般会計目的別決算概要)

歳入：32億1389万円 (6億8426万円減) 歳出：29億4508万円 (7億8689万円減)
差引 2億6881万円黒字

村税は引続きダム固定資産税減少により減収も、
財源不足に伴う財政調整基金からの繰入は行わなかった。

<p>総務費 5億5,978万円 (2億7,289万円減)</p> <ul style="list-style-type: none"> 庁舎エアコン設置 地域振興バス 空き家対策推進事業 他 	<p>民生費 5億8,756万円 (3億267万円減)</p> <ul style="list-style-type: none"> 住民税非課税世帯等給付措置 介護保険・社協運営補助 子育て世帯臨時給付金 他 	<p>衛生費 2億591万円 (729万円増)</p> <ul style="list-style-type: none"> 新型コロナワクチン接種(体制整備)事業 水道事業繰出 電話健康相談・オンライン相談事業 他 
<p>農林水産業費 1億6,708万円 (1,891万円減)</p> <ul style="list-style-type: none"> 耕作放棄地解消推進事業 緩衝帯整備事業 農業集落排水事業繰出 他 	<p>商工費 1億8,120万円 (7,386万円減)</p> <ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症対策支援事業 観光協会運営補助 しらかば平地区住民集会施設建設 他 	<p>土木費 3億9,167万円 (1,567万円減)</p> <ul style="list-style-type: none"> 栃木橋橋梁修繕工事 村道冬期管理費 村道奥峰1号線改良工事 下水道事業繰出 他 
<p>消防費 1億1,635万円 (1,807万円減)</p> <ul style="list-style-type: none"> 第2分団消防ポンプ積載車更新 避難所用空気清浄機購入 消防団出動手当 他 	<p>教育費 1億8,133万円 (1億463万円減)</p> <ul style="list-style-type: none"> 図書館等エアコン設置 教室等LED化工事 公民館・地域図書館運営費 学校給食費 他 	<p>災害復旧費 1億1,203万円 (4,583万円増)</p> <ul style="list-style-type: none"> 奥峰沢川復旧工事 8月豪雨による災害復旧事業(林道池の平大原線、林道塩沢線) 他 
<p>公債費 3億1,392万円 (1,818万円減)</p> <ul style="list-style-type: none"> 地方債(過疎対策事業債など)の元利償還金 	<p>議会費 3,164万円 (197万円減)</p> <ul style="list-style-type: none"> 議員報酬、共済費など議会運営費用 	<p>諸支出金 9,661万円 (1,314万円減)</p> <ul style="list-style-type: none"> 森林環境整備基金 公共施設整備基金 過疎対策道路維持基金積立 

※ () 内の数字は前年度比。

監査報告 木祖村監査委員より以下の通り報告がありました。

税収等減少する中、職員の努力により適切な行政サービスの水準と健全な財政状態が保たれていると考えられる。しかし、今後はさらに人口減少による税収減、公共施設の老朽化等一般財源による事業増加が予想されるとともに、物価上昇による影響も心配される。自主財源の確保と特定財源等を積極的に活用しながら、効果的な財源配分に努め、職員が一丸となってアフターコロナを見据えた安心して暮らせる村づくりを進めていただくようお願いする。

令和4年7月会議

令和4年7月22日(金)再開

令和4年度木祖村一般会計補正予算(第3号)

木祖村議会は7月22日(金)再開され、議案2件(条例改正1件、補正予算1件)について慎重審議し原案通り可決し、同日散会しました。令和4年度木祖村一般会計補正予算(第3号)について、歳入歳出それぞれ12,125千円を追加し、総額を2,945,348千円とした。

7月会議 議案など審議結果

番号	件名	採決等結果
議案第31号	木祖村議会議員及び木祖村長の選挙における選挙運動の公費負担に関する条例の一部を改正する条例について	可決
議案第32号	令和4年度木祖村一般会計補正予算(第3号)	可決

令和4年9月会議

令和4年9月13日(火)再開

令和4年度木祖村一般会計補正予算(第4号)

木祖村議会は9月13日(火)再開され、決算認定5件、議案7件(人事案件2件、補正予算4件、変更契約の締結1件)、報告1件、諮問1件について慎重審議し原案通り可決し、9月20日(火)散会しました。

令和4年度木祖村一般会計補正予算(第4号)は、物価高騰対策商品券支給、事業者支援給付金、新型コロナウイルス感染症対策事業ワクチン5回目接種対応等に伴う予算とし、歳入歳出それぞれ102,046千円を追加し、総額を3,047,394千円とした。

9月会議 議案など審議結果(付託委員会について、厚生文教・産業経済一部省略)

番号	件名	付託委員会	審査結果	採決等結果
議案第33号	木祖村監査委員選任の同意を求めることについて			同意
議案第34号	木祖村教育委員会委員選任の同意を求めることについて			同意
○認定第1号	令和3年度木祖村一般会計歳入歳出決算の認定を求めることについて	厚文・産経	可	認定
○認定第2号	令和3年度木祖村国民健康保険特別会計歳入歳出決算の認定を求めることについて	厚文	可	認定
○認定第3号	令和3年度後期高齢者医療制度特別会計歳入歳出決算の認定を求めることについて	厚文	可	認定
○認定第4号	令和3年度木祖村簡易水道事業会計決算の認定を求めることについて	産経	可	認定
○認定第5号	令和3年度木祖村下水道事業会計剰余金の処分及び決算の認定を求めることについて	産経	可	認定
○報告第2号	令和3年度決算に基づく健全化判断比率及び資金不足比率の報告について			承認
○諮問第1号	人権擁護委員候補者の推薦につき意見を求めることについて			可決
議案第35号	令和4年度木祖村一般会計補正予算(第4号)	厚文・産経	可	可決
議案第36号	令和4年度木祖村国民健康保険特別会計補正予算(第2号)	厚文	可	可決
議案第37号	令和4年度木祖村簡易水道事業会計補正予算(第2号)	産経	可	可決
議案第38号	令和4年度木祖村下水道事業会計補正予算(第2号)	産経	可	可決
議案第39号	建設工事変更請負契約の締結について	産経	可	可決

報告

木祖村議会議員の補欠選挙に於いて、奥原 富氏が当選されました。

令和4年10月2日(日)、任期は、現村議会議員の任期期間の令和5年4月29日までとなります。

令和4年

9月15日(木) 役場2階大会議室

常任委員会連合審査

▼ 厚生文教委員会

認定第1号 令和3年度木祖村一般会計歳入歳出決算の認定を求めることについて

問 公共施設周辺整備、緩衝帯整備、景観整備事業を木曾シルバー人材センターに業務委託して3年になるが、実施範囲や作業内容はどうか。

答 年度当初に受託者と実施箇所の棲み分けや実施方法の調整をしている。また、作業員の割り振りなど、委託先であるシルバー人材センター内の課題であり改善が図られるよう対応していく。

問 住民基本台帳の記載内容の出生数と届出件数の違いはなにか。

答 件数で記載しており出生数については本籍が木祖村にある方の届出件数で、住所地の出生数とは一致しない。村外で出生届を提出することも可能であるとの回答があった。

問 介護新規申請の違いは。

答 1号は65歳以上、2号は40歳から64歳で、人数は合わせて約40名である。

問 小学生の給食時間が短いのでは。

答 本来は会話をしながらゆっくり食事をさせたいが、

コロナ禍であることや時間の制約もあるため難しい状況であるが、できる範囲で改善していきたい。

意見 急いで食事をすると咀嚼が少なくなることで、発音等にも影響が出ることも危惧される。給食時間について考えてほしい。

問 GIGAスクール事業のタブレットの持ち帰りをしているのか。

答 現在、児童生徒が自宅へタブレットを持ち帰ってはいない。リモートによる授業でタブレットを活用している。

問 不法投棄場所等の範囲はどこか。

答 箇所は村内広範囲に渡る。常習的に不法投棄される箇所には看板を設置しているが効果が少ない。

問 村税等の徴収状況について。

意見 機構改革の成果と、職員の努力も含め高く評価したい。

議案第35号 令和4年度木祖村一般会計補正予算(第4号)

問 木曾広域連合負担金の環境センター及び木曾クリーンセンター分の増額とは。

答 電気料及び燃料が高騰したことで増額となった。

請願・陳情

●**発議第2号** 「不登校児童生徒に対して多様な学習機会の確保のための経済的支援制度の確立を求める意見書」
提案議員 深澤 衿子議員

▼ 産業経済委員会

認定第1号 令和3年度木祖村一般会計歳入歳出決算の認定を求めることについて

問 有害鳥獣対策の狩猟免許取得者を増やす対策は。

答 対象の1つとして、狩猟免許取得にかかる費用負担等の補助も考えていきたい。

議案第35号 令和4年度木祖村一般会計補正予算(第4号)

問 農業委員会タブレット端末の活用方法はどのようになるのか。

答 農業委員へ配布することになるが、詳細は検討中である。

議案第38号 令和4年度木祖村下水道事業会計補正予算(第2号)

問 資本的支出の企業債償還金の変更はなぜか。

答 当初5年据え置き30年償還を想定していたが、利子の支払い負担が発生することから、軽減を図るために貸付条件を据え置き無しの10年償還に変更した。

令和4年9月20日(火)
役場2階大会議室

木祖村議会全員協議会

協議事項(各課からの報告と予定)

● はくさいマラソン大会の結果について

産業振興課

- 第35回やぶはら高原はくさいマラソン大会の経過報告として「エントリー数1,123名・当日出走者数976名86.9%・当日完走者数937名96.0%」都道府県別では、長野県375人・愛知県311人・東京都50人・神奈川県30人が多い都道府県であった。参加者からの評価と意見では、アップダウンが多く過酷なコースであったが「参加賞・はくさい・商品券等」が選手に配られた事は嬉しかった。大会関係者の協力もあり来年も来たいとの意見もあった。
- 反省会として、競技の運営上の細かな問題点もあったので今後の課題につなげ、来年も大勢の参加者を呼びたい。
- 村としては、次回の大会の計画として「令和5年7月2日(日)予定(案)」としている。

● 県要望事業の今後の予定について

- 葦原犀勝沢砂防事業は、保全対象として、人家35戸、避難施設(道の駅さそむら)、国道19号、(主)奈川木祖線、JR中央本線葦原駅等、防災上重要な施設があり、大雨の際に土石流の発生が懸念されることから、住民に事業説明をし、計画と用地買収後、工事着工としたい。完成には、約3年間程度かかる予定。
- 菅の宮沢川土石流危険渓流事業は、保全対象として、人家23戸、避難施設である菅公民館があり、土石流危険渓流に指定される。令和2年、令和3年と流水が流路から溢れる災害が発生したため流路工を整備、流下能力を確保される工事となる。
- 工事期間は、約3年以上と予想される。

● 国道数原改良の残土処分場について

- 改良工事に伴う残土処理は、木祖村のコア山に計画される。についてはボーリング調査等を行い安全性の確認や方法の検討が行われる。

令和4年9月13日(火)

一般
質問

村政を問う

6議員7件

鈴木 正弘 議員

1 思いを持って取組んだ村政は

青木 功 議員

1 福祉タクシーの充実に向けて

安原千佳世 議員

1 「観光施設整備基金」について問う

2 唐澤村長に問う

田中 寛幸 議員

1 鳥獣などによる被害防止策は

大久保繁子 議員

1 在職中の村長の自己評価について問う

深澤 衿子 議員

1 源気くんドリーム商品券の
取り組みについて



鈴木正弘 議員

思いを持って取組んだ村政は

答 100%燃え尽きた。人口減少対策で木祖村を残したい

唐澤村政の成果と効果について、村長は村の政策に携わり「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を元に、「笑顔あふれる元気な源流の里木祖村」を重点に取組まれた。村長に就任され協働による自立した村を基本方針とした地域6次産業等の事業も進められた。公約には、過疎地域自立促進事業推進・経済対策・定住対策等、健康や財政健全化・観光を含め、今日まで並々ならぬ努力をされた。

問 過疎地域自立促進事業推進等で、ハード事業からソフト事業への投資による評価と成果。

村長 本村は過疎地域に指定されており、過疎債など財政的支援を受け事業展開を図ってきた。「笑顔」建設では、宿場内に村民が集う場所として建設し、サークル活動をはじめ、イベントや子ども達の学習の場など、村民の憩いの場所となっている。また、パンの販売は障がい者雇用の場ともなっている。古民家改修・村営住宅建設事業については、移住定住促進を目的として建設し、人口減少の抑制につながっている。CATVの光化事業では、生活水準の向上につなげている。産業振興では、そば組合の設立により耕作放棄地の減少につながったことや、福祉関係の一次医療の確保が一番大きい仕事であった。

問 経済対策では、雇用で「農産物加工センター・街並みの活性化・笑ん館・名古屋市金山にある木祖村アンテナショップ事業等」点から線、線から面への成果は。

村長 観光協会の民営化で素晴らしい実績が出ている。アンテナショップも伸びており期待している。加工施設も13人の雇用があり、生産者からの入荷を期待したい。お六櫛の担い手ができなかったことだけが残念であり、新しい仕事場作りが必要であると思っている。

問 定住対策で、人口減少が大きな課題となり年々減少傾向だが、木祖村の定住対策については、まだまだ道半ばと考える。新しい人の流れ（交流人口）の評価は。

村長 定住対策では、生活基盤の充実を図り、住みやすい村であることがポイントになる。なお郡内で人口減少率が一番低いのは、努力した成果である。

問 3月以降、80%程度の評価、その後の評価はどうか。次の村長に託したい「思いと願い」は何か。

村長 現在は、辞めると言うことで燃え尽きた。100%の評価としたい。次期村長に託したいことは、人口減少対策をやれば、本村は残る。そのことをお願いしたい。



青木 功 議員

福祉タクシーの充実に向けて

答 効率的で効果的な公共交通体系の構築を進めていく

問 本年度ひまわり号の減便、たんぼぼ号とふれあい号の乗車運賃の値下げが実施された。5か月間の短期間ではあるが効果は表れているか。

総務課長 コロナの影響もあり福祉タクシーは減少したが、デマンドタクシーは利便性、運賃の値下げによりバスからの移行で利用者は増えている。

問 人口減少が進む木祖村であっても高齢化率は上昇傾向にある。免許証返納者の増加等を考えるとたんぼぼ号、ふれあい号への期待は益々大きくなる。民間企業ではあるが新代表に代わり、そうした村民の期待に応えるべく福祉タクシーとしての新車両の導入、より細やかな対応のできる女性ドライバーの雇用を考えている。公共交通として木祖村の新たな取り組みはあるのか。

総務課長 バスの減便の対応策として公共交通の見直しを実施した。デマンド交通システムはドアツードア

の形から利用増が見込まれますし、保育園児、小・中学生の送迎、福祉を含め村民の足の確保として今後も、公共交通の充実を図っていく。木曽地域交通対策協議会の中で広域路線の在り方も議論されており、効率的で効果的な公共交通体系の構築を引き続き積極的に進めていく。

問 民間の事業所として村からの委託管理費の助成があつてようやく経営が成り立っている状況である。今後、村の公共交通として継続的な経営を考えていくとした時、築70年の社屋が問題となる。筆頭株主の木祖村として社屋の建設の助成はできないか。

総務課長 現状では建設への助成はできない。

村長 民間の事業所ではあるが村民の足の確保は無くすわけにはいかない。会社の最終的な場所の検討を含め、奥木曽グリーンリゾート(株)や木祖村観光協会等と交え、新村長の元話し合いを行ってほしい。



安原千佳世 議員

I 「観光施設整備基金」について問う

答 新村長就任後検討するが10～20百万円の間程度で検討することになる

問 本年3月の議会で基金条例が改定され観光施設整備基金が設けられた。やぶはら高原スキー場あり方検討会の議論を踏まえて設けられた。スキー場の施設や設備の更新等に要する経費に充当することを目的とするものである。説明の中では、一般会計の剰余金の10%を上限とした額及びふるさと納税にスキー場支援を目的としたメニューを追加しその納税額を積立てるとしている。今般令和3年度決算が固まり、この基金の積立について村当局として具体的にどうするのか、その金額及び積立てる時期等を伺いたい。

総務課長 この基金は特にやぶはら高原スキー場の施設整備や設備更新などの財源に充当することを目的として作られた。3月の委員会の中で、当時の目安として10百万円を見込んでいるが、財政調整基金からの繰り入れ状況や全体の財政状況を踏まえて積立額を決定したいと答弁した。今般の決算では繰り入れを行っていないなど、財政状況を勘案してという部分について前提条件はクリアされていると考える。剰余金の額から考えると当初目安としていた10百万円から20百万円程度の範囲になるかと考える。新村長を迎え年内には補正予算として計上していきたい。

意見 スキー場あり方検討会も新村長就任後まで延期されるということである。最大限の20百万円を期待する。

II 唐澤村長に問う

問 ①地方公共団体の行く末は首長によって決まる。次期村長に期待することはなにか。
②2期8年の経験を踏まえて村議会、議員に対する要望、期待等は何か。

唐澤村長

①令和元年に130周年記念、また今年は小学校開校150周年の節目を迎えた。合併しなくて良かったと考える。木祖村の名前を絶対残してほしい。そのためには人口減少対策が何よりも重要である。若者が働く場所があつて残り、結婚ができる。そして子どもができたら子育てをしっかりとできるようにする。お年寄りの皆さんは健康寿命を延ばしてもらい、寝たきりにならないで自分のことは自分でできる。そういう村づくりをしていけば人口は一気には減らないし保てる。それを望む。
②難しい質問であるが、魅力ある村作りをすること、それをすれば若者も自然と議会に出てくる気がする。来年4月に統一選挙が始まるが、かつて皆さんが非常に燃えた時期があつた。新聞にも取り上げられ非常に村のイメージが上がった。私は素晴らしいと思ったがああいうことが再現できないか。新村長と一緒に取組んでほしい。



田中寛幸 議員

鳥獣などによる被害防止策は

答 緩衝帯整備事業は非常に効果が高い取組みの一つである

問 鳥獣等の捕獲数は。

産業振興課長 この10年を平均すると1年あたりの頭数は、イノシシは45頭、日本猿は27頭で被害の増加傾向にある日本猿は、計画捕獲数を令和2年までは25頭だったものを3年度55頭、4年度は75頭まで拡大をしている。鳥類は一番多いキジバトで年間113羽となっている。

問 鳥獣等の被害防止策の現状と効果は。

産業振興課長 一番被害の大きいものはイノシシと猿であるが現状と効果としては緩衝帯整備事業により、人里に出にくい環境作りに取り組んでおり、日本猿については地域のリーダーが主体となり生息域調査を実施、蓄積した情報を広く周知説明するとともに、猿接近警報システムを活用している。往年にはロケット花火・爆竹を提供し追い払いをしていただいている。また、電気柵等の設置に補助金を出し成果が上がっている。今年度菅地区において電気柵とトタンの複合柵の設置を予定し効果の検証もしながら今後の対策につなげたい。

問 鳥獣被害対策を担う人材育成は。

産業振興課長 狩猟免許の取得しやすい環境作りに取り組んでいる。また、地域おこし協力隊の免許取得も

猟友会の協力を得て人材育成につなげたい。

問 鳥獣被害防止実行部隊など徹底的に懲らしめることはできないか。

産業振興課長 出産経験メス猿の捕獲は群れを分散させさらに被害が拡大する可能性がある。猿について、地域全体での学習会の実施や、地域全体での追い払いが重要。実行部隊等も検討したい。

問 緩衝帯の整備状況は。

産業振興課長 藪原、吉田、菅地区においては8月末時点で本年度事業は終了。藪原10.3ヘクタール、吉田5.1ヘクタール、菅18.6ヘクタール、小木曽地区は11.4ヘクタールを実施。また、猿等の被害状況を考えながら効果的に整備を実施したい。

問 大洞地籍の堤が現在「ぬたば」となっているが整備等をやるのか。

産業振興課長 現場を確認したが昨年の8月豪雨や一昨年の豪雨により沢からの土砂が堤に堆積したと農家さんに聞いた。この場所は私有であるので整備等は予定していない。災害が発生する可能性を否定するものでないので今後も注視したい。緩衝帯整備についても要望があれば実施する体制である。



大久保繁子 議員

在職中の村長の自己評価について問う

答 100%実現できたと評価する

問 在職中笑顔あふれる村政を目指してこられたと認識しているが笑顔あふれる村政は実現できたのか。

村長 就任当初村民の皆様に集まっていただき、まち・ひと・しごと総合戦略を打ち出し、村民の笑顔あふれる村政を目指した。しかし3年に渡るコロナ禍と2年続きの大災害で、一時期泣き顔になったが、国の支援や村民の協力を得て全面的ではないが復興しつつある。その先には笑顔が戻ってくると思っている。個人としては100%実現した。

問 人口減少について。人口増加にはつながらなかったにしろ減少にストップをかけたいとしてきたがその成果はどうだったのか。

村長 木曽郡下では5年間で2900人の減少があった。地理的、形状的理由から県下でも減少率が高い。個人として人口増加は無理だと考えている。伊那や塩尻に30分で通える位置にあるので、住宅、結婚、子育て支援に力を注ぎ、移住、定住者を増やす。当村は郡下での減少率が1.7%で一番低い。これを以て成果

はあったと評価する。又元気な高齢者がこの村の人口を支えている。

問 職場環境改善について。

就任2期目で機構改革を実現し、村民へのサービスと実務向上に力を注いだと思うが成果はどうだったのか。

村長 2期目に念願だった機構改革を行った。係体制を確立し、チェック体制の強化を図った。1 総合窓口の設置 2 誰に聞けばいいのかを分かりやすくした 3 収納業務の簡素化 4 保育園を教育委員会へ移行 これらの機構改革を通して実務向上と住民サービスの向上に貢献できた。やって良かった。

問 職場内のハラスメントはないか。又その対策についてはどうか。

村長 ハラスメントはないと断言する。対策についてはハラスメント防止要綱の作成。研修会への参加。3回の面談の実施。又職場内のレイアウトの変更から一望できるようにした。各個人は言動に注意するよう常に意識している。



深澤 衿子 議員

源気くんドリーム商品券の取り組みについて

答 今後この事業を実施する場合は、要綱等を整備し慎重に対応する

問 本年度は源気くんドリーム商品券を購入出来ない村民が多く、議会として商工会の説明を受けたが、1時間で5000冊の商品券が売れたことは驚きであり、説明の返答に疑問を持った。購入出来なかった住民は非常に残念と言っていた。昨年売れ残った商品券の取り扱いはどうであったか？

産業振興課長 昨年は、国のコロナ対策臨時交付金を活用し、5000円のプレミアムが付いた商品券を4000冊発行し、今年同様3会場にて1世帯5冊を限度で販売した。期間は4月～9月までの設定で、回収率99.8%であった。当日の販売数は2010冊、村の広報で住民に周知した上、翌日からの商工会の窓口で販売し、5日後に全て完売した。

問 昨年の完売には、商工会員が苦勞されたと聞いた。今年の販売は、事前の対策をしたのか。

産業振興課長 販売数は国のコロナ交付金や県の補助金を充当して、通常4000冊から1000冊増の5000冊とした。より多くの方に購入をしていただきたい思いから、よってけネットでの周知などに力を入れた。村外者でも購入できることから近隣の市町へ広告を出したり、事業者は商品券での購入を歓迎するなど工夫を凝らした。

問 国や県が支援する事業者のためとはいえ、商品券を使うのは村民であり、隣市町へのチラシが配られたことは、議会側は知らなかった。事業者がまとめて買う話はその時点でされたのか。3会場には商工会役員と村側はそこに立ち会ったか？

産業振興課長 3会場に職員はいた。事前に商工会役員に販売の方法が伝わっていた。若干ルールが徹底されていなかった部分があると認識する。

問 1件につき10冊のはずが100冊などまとめて販

売されてしまった。どうしてそうなったのか。

産業振興課長 今回は、購入者の知人等の依頼を受け付けたため大量の購入が可能となった。藪原会場では、10冊を徹底し、まだ欲しい方は後ろへ並ぶという形をとった。会場によって販売方法が異なっただけと思われる。

問 販売会場に役場職員もいながら、いくら頼まれたからといって大量に売っていいものか。なぜ役員やトップに電話して指示を仰ぐことができなかったのか？

産業振興課長 販売方法の認識が会場によって異なった。

問 事業者支援のためと考えれば、事業者が得をする方法をとることはやぶさかではない。1件10万と決め、売れ残った段階で40冊なり50冊なり100冊買うのは良いと思うが、最初から売ったことは間違っただけだ。村側もこんな支援の仕方をしていないと言わなければならない。村も責任に欠けていた。次年度に繋げられる取り組みかを議会に報告し、村民のために公平性を持って事業化すべきだ。村長はどう考えるか。

村長 任期最後に商品券事業がこういう形となり村民に迷惑をかけた。今後は、販売方法など明確にし、要綱等も整備し、慎重に対応していく。村民や事業者が、心から喜んでいただけるような取り組みを、次期村長にもお願いしていく。今回迷惑かけたことについては心からお詫びを申し上げたい。

意見 販売方法については、村側の対応と、商工会のやり方が間違っていたということは、指摘させていただく。村外の方が買われて木祖村に貢献しているということかもしれないが、買えなかった村民からみれば面白くない。村民が盛り上げていくのが普通であり、次年度新村長がしっかり受け止めて取り組んでいただけることを切に願う。

令和4年 木曽広域連合議会 第1回臨時会議 報告

令和4年7月8日(金)木曽文化公園にて、令和4年木曽広域連合議会第1回臨時会議を開催し、議案3件について、慎重審議し原案通り可決し、同日閉会しました。 *詳しい内容は、「きそネット」第73号でご確認ください。

議案番号	件名	採決等結果
議案第19号	令和4年度木曽広域連合一般会計補正予算(第2号)	可決
議案第20号	工事請負変更契約の締結について「木曽文化公園 ホール天井等改修工事」	可決
議案第21号	物品購入契約の締結について「災害対策特殊救急自動車(高度救命処置用資器材含む)」	可決

令和4年度長野県町村議会議員研修会

令和4年7月14日(木)
松本市 キッセイ文化ホール 大ホール

7月

長野県町村議会議長会主催で、地方分権改革の進展に伴い、地方公共団体の自由度が拡大し、判断と責任のもとで効率的な行財政運営が求められる中、相次ぐ自然災害や新型コロナウイルス感染症への対応など、町村にとって重大な課題が山積していることから、議会の活性化を図り、住民福祉の向上に資することを目的として開催されました。

演題「町村自治体の防災・減災対策と災害時の議会議員の役割」

跡見学園女子大学 観光コミュニティ学部 コミュニティデザイン学科 教授 鍵屋 一 氏

演題「議会におけるハラスメント」

弁護士（元衆議院法制局第1部第1課長）太田 雅幸氏

令和4年度木曽郡町村議会議員総会

令和4年8月1日(月)
上松町 ひのきの里 総合文化センター

8月

木祖村議会の提出議題「中学校の部活指導の合同部活動推進について」

令和4年度木曽郡町村議会議員総会が、上松町ひのきの里 総合文化センターで開催されました。木曽郡6町村の議会議員が集結し、各町村の代表者が地域の諸問題に対し、関係機関への要望発表を行い決議されました。本議会から安原千佳世議員が「中学校の部活指導の合同部活動推進について」をテーマに発表しました。

講演会 演題「木曽地域の安全・安心への取組」 講師 大瀬木 弘 氏 木曽建設事務所長

人口減少でも「木曽らしい」上質な生活地域づくりとして『木曽の文化遺産・道路ネットワーク・人材育成・木曽川右岸道路整備と強靱化等』重点事業の概要等について講演されました。

記

1. 国から指示がある「休日部活動の地域移行」に合わせて、中学校の部活動については、顧問に代わる外部指導者の確保と派遣を図ること。
2. 外部指導者の導入により、どの部活動でも一律に指導が受けられる体制の確保や、保護者負担が生じないよう仕組みづくりを図ること。
3. 運動部、文化部を問わず希望する部活動に取り組むことができる複数校による合同部活動を推進するとともに、それによって生じる町村を越えた移動手段や活動場所を確保できる仕組みづくりを図ること。



安原千佳世 議員

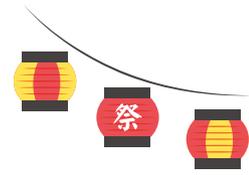
令和4年 木曽広域連合議会 第3回定例会議 報告

令和4年8月31日(水)木曽文化公園にて、令和4年木曽広域連合議会第3回定例会議を開催し、(認定3件、報告1件、議案4件)について、慎重審議し原案通り可決し、同日閉会しました。

議案番号	件 名	採決等結果
認定第1号	令和3年度木曽広域連合一般会計歳入歳出決算について	可決
認定第2号	令和3年度木曽広域連合介護保険特別会計歳入歳出決算について	可決
認定第3号	令和3年度木曽広域連合下水道事業会計決算について	可決
報告第2号	公共下水道事業における資金不足比率の報告	承認
議案第22号	令和4年度木曽広域連合一般会計補正予算(第3号)	可決
議案第23号	令和4年度木曽広域連合介護保険特別会計補正予算(第2号)	可決
議案第24号	令和4年度下水道事業会計補正予算(第2号)	可決
議案第25号	工事請負契約の締結について「木曽広域連合 養護老人ホーム木曽寮 移転改築工事」	可決



元気発見！ むらびと大図鑑



本年度、村内に元気をくれた祭り団体、氏子総代会長さんの紹介

藪原神社例大祭 総代会長 日野 文平 氏

藪原神社例大祭は、疫病退散を祈願する為に始められたと伝わっております。今年度の例大祭は、皆様の安寧を祈願し、祭りの伝統を継承していくために、氏子の皆様や住民の皆様、祭り団体の絶大なご協力があり斎行できましたことに、大変感謝しております。

祭り団体の皆様とは、何回も会議を開催して、コロナ感染症対策のガイドラインを作成し、規模を縮小し、特に、各家庭に祭り関係者が立ち寄らない、飲酒しないことを徹底して、3年ぶりに神輿の御幸・屋台の運行を斎行しました。多くの皆様にご参拝頂けましたことは、大変うれしく思います。今後も神社についてご協力をお願いします。



小木曾諏訪神社例大祭 総代会長 深澤 喜里 氏

今年度の小木曾諏訪神社例大祭は、御神輿の斎行と神楽獅子の奉納をする予定でしたが、新型コロナウイルスオミクロン株感染症拡大を受け、やむなく本殿において神事と花火打ち上げによる祭典となり、他の催事斎行ができませんでした。

来年は、先人の方から受け継いできた先輩諸氏をはじめとする「氏子総代・各区自治会長・神楽獅子連」の皆さんの力をかりながら、新しくなる鳥居の下で、今まで以上に盛大な小木曾諏訪神社例大祭を区民の皆様方と一緒に迎えたいと願っております。



菅衣更著神社例大祭 総代会長 原 孝文 氏

世界中に広がったコロナ禍の為、私達菅の衣更著神社も2年間、神事のみのお祭りをしてきました。その中でも若者と子どもたちが太鼓・獅子舞の練習を頑張る姿を見て伝統を引継ぎたいとの思いもあり、役員関係者と氏子の意見も取入れ会議等を重ねた結果、今年は飲食等一切無しとし、太鼓と獅子舞が各地区で披露にあたり感染対策をしっかりと取り、御神体と巡行する方向で決定しました。幸いにも当日は、天気に恵まれ神事が斎行され御輿と同行し各地区内を巡ることができました。披露の際には、大きな拍手をいただき皆さんにお祭りの雰囲気を感じていただく事ができました。斎行に際しては、感染が無い事を願うアイデアとして「御守りの作成・御餅」と一緒に、恒例のように全戸へ配布ができ感染者も無く予定通りの時間で終えた事は、氏子関係者の協力があったからこそと感謝申し上げます。次年度は、コロナの無い本来のお祭りが斎行できる事を願っています。



台風14号の通過と共に極端な気候変動によって、体調を崩された方もおられたのではないのでしょうか。野山にも秋の気配が感じられるようになって、冬支度を連想します。さて9月は決算議会で1年間の村政の成果報告が成されました。私たちにとってこの1年は昨年と変わらずコロナ感染予防に邁進した年であり、2年続いた災害への復興の年でもありました。復興の様子を目の当たりにしながら担当関係者に対して頭が下がります。又10月には新村長が就任し新たな出発ですが、唐澤村長の業績を讃えて村民一丸となって共に歩んで行きましょう。

木祖村議会報編集委員会 委員長 鈴木正弘 委員 安原千佳世 田中寛幸 大久保繁子